

カルチュラル・スタディーズ学会 第5期幹事会 第3回幹事会 議事録

日時：2020年12月18日幹事会 20：00～21：50

議事録作成者：大石

出席者：毛利、井上、藤田、村田、山本、ケイン、竹崎、大石

1. カルタイ 2021 について

○プレイベントの報告（井上、山本、竹崎）

- ・ 12月5日（土）に開催。金沢の研究者や学生との交流の機会になった。
- ・ カルタイで使用する会場の下見をした。

○オンライン学会の反省点

- ・ 村田幹事一人でリンクをまとめる等の作業は非常に大変だった。タイムスケジュールに一カ所ミスがあったが、幹事会で情報を共有していたにも関わらず、事前に誰も気がつけなかった。
⇒ケイン幹事をパネル担当に加え、2人で確認できる体制をつくる。
- ・ 仕事を分担したため、統括する責任者が明確でなかった。
- ・ 当日のネット環境により、1名発表ができなかった。今回は1名のみだったため対応できたが、人数が増えた場合は対応が困難。

○カルタイ 2021 の方針

- ・ 金沢にてオンサイトのみで、小規模での実施。オンラインは行わない。
 - 前回の幹事会ではハイブリッドの方針が打ち出されたが、オンライン学会の反省から、この人数でのハイブリッド対応は現実的ではないと判断した。
 - 人数を制限するため、Call for papers の審査は厳しくなる可能性が高い。
 - 応募時点で日本に居住していない者は、発表不可とする方針（今後も渡航制限の厳しい状況が続くと思われるため）。
 - コロナ禍への対応として、規模は小さくせざるを得ない。開催時期のコロナの状況によっては、各会場への入場者数を制限する可能性もある。
- ・ 若手研究会を東京と関西で、例年以上に積極的に開催することで、カルタイ 2021 を補う。その際に、若手研究会は、学会発表に準ずるものにする。
- ・ Call for papers は、日本語版は年内に出す。英語版は準備ができ次第、あとから出す。
⇒稲垣氏に執筆を依頼。山本幹事と村田幹事で加筆後、幹事会で確認。
- ・ 大会の詳細については、次回の幹事会で検討する。

2. 事務局より

○日本学術会議への変更届

- ・ 変更届（代表幹事の交代等）を提出した。

○SMOOSY の進捗状況の報告

- ・ Google フォームでのアンケートは 123 名から回答があった。
- ・ データの更新作業が終わり次第、年内に運用開始予定。

○年報 8 号の論文掲載者について

- ・ 昨年度発行の年報 8 号に、非会員の論文を掲載していたことがわかった。急遽、入会手続きをしていただいた。

○年報 9 号の書評について

- ・ 書評する書籍は、会員が執筆したものであることが望ましい。
- ・ 書評を掲載する際、評者に渡す書籍を学会で購入すべきかどうか。
⇒まずは出版社に問い合わせる。手に入らない場合は、学会で購入することも可能だが、高額な書籍の場合は、幹事会で審議する。

○会則第 21 条第 2 項を実施するための特別委員会の設置について

- ・ 会則第 21 条第 2 項により、設立から 10 年で、学会の存続・解散を含め、これまでの成果や今後の方針について議論する必要がある。2021 年が 10 年目にあたる。
- ・ 田中東子氏と若手数名で、特別委員会を組織する。
- ・ 年内に、特別委員会の設置について会員に報告する。
- ・ 金沢大会で、委員会での検討内容を発表できると良い。間に合わなかった場合は、別の機会を設ける。